

きれいな甲斐

No.64 MARCH 2014

環境パートナーシップやまなしは、県民・事業者・行政のパートナーシップ（協働）のもと、団体間の連携や情報交換の場づくりなどを通じて、自主的な環境保全活動を積極的に展開していくことを目的として様々な活動を行っています。

環境保全に関する活動を積極的にを行っている団体、個人のみならず皆様のご入会をお待ちしています。

環境パートナーシップやまなし

事務局 ●〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1丁目6-1 山梨県森林環境総務課内
TEL.055-223-1657 FAX.055-223-1636 〓sinkan-som@pref.yamanashi.lg.jp

ホームページ [「パートナーシップやまなし」検索](#)

発行責任者 ● 広報専門部会長 権守昇



古紙配合率100%再生紙を使用しています

やまなし環境活動推進ネットワークフォーラムを開催しました



環境パートナーシップやまなしは、1月25日（土）に「やまなし環境活動推進ネットワークフォーラム」を公益財団法人やまなし環境財団との共催で開催しました。

当日は約100名の方々に参加していただき、午後1時から4時まで環境保全に向けた取り組みについて活発な情報交換がなされました。

前半では、環境保全に向けた活動を実践している3団体から日頃の活動内容について発表していただきました。

《活動報告》

幼児緑育研究会～森林を守り育てるキャラバン活動～

最初に、「幼児緑育研究会」からは「森林を守り育てるキャラバン活動」と題して、保育園や幼稚園を訪問し、森の魅力・不思議を紹介したり、間伐材で作った積み木で遊んだりといった、子どもたちの五感を使った環境教育の事例が紹介されました。子どもたちが理解しやすいようパネルシアターや大型紙芝居を用いるなどの工夫もしているそうです。

今後も環境問題について子どもたちの理解と関心を高め、活動を通じて、「森林を愛し、森林を育む」心を育て、未来の森林づくりを担う次世代育成につなげていきたいとのことでした。

ざぶん賞山梨実行委員会～子どもたちと地域のみなさんと活動するざぶん賞～

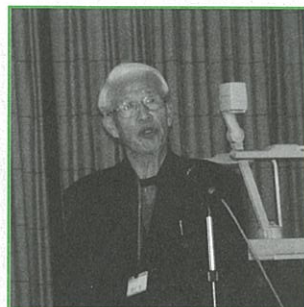
続いて、「ざぶん賞山梨実行委員会」からは、「子どもたちと地域のみなさんと活動するざぶん賞」と題して、子どもたちから「水」に関する創作文を募集し、「命」や「自然」の大切さを考え理解し、行動を起こす契機となったこと、地域の方と一体となって花いっぱい運動、自然に親しむウォーキング、里山保全整備活動を実施していることなど、環境教育や環境保護活動に関する取り組みが紹介されました。

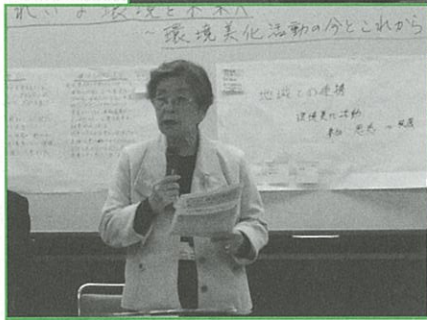
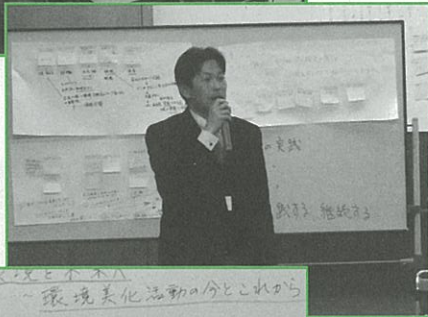
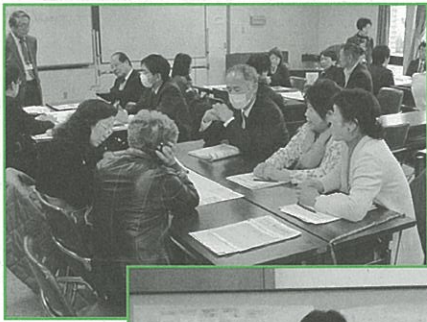
今後は、ざぶん賞の認知度を更に高めていくとともに、「水」に関する創作文の応募を全県下の取り組みとして広めていきたいとのことでした。

公益財団法人富士山をきれいにする会～半世紀を超えた富士山美化活動～

最後に、「公益財団法人富士山をきれいにする会」からは、「半世紀を超えた富士山美化活動」と題して、東京オリンピックの2年前、昭和37年に発足し、富士山環境美化クリーン作戦として現在までに延べ1,327,884人が富士山の清掃活動に参加し、合計5,074tのゴミが回収されたことが紹介されました。そのほか、毎年、ツツジやモミジなど1,000本を超える苗木を植樹し、富士山麓の環境保全、景観保護にも貢献している様子が紹介されました。

世界遺産登録によって高まる富士山ブームにより新たな環境問題も出てくることも想定されますが、引き続き環境美化啓発活動を地道に進めていきたいとのことでした。





ワークショップでの意見交換

後半では、公益財団法人やまなし環境財団の「未来へつなぐ環境教育」と環境パートナーシップやまなしの「きれいな環境を未来へ～環境美化活動の今とこれから～」の2つのテーマに分かれて、全員参加型のワークショップを行いました。

環境パートナーシップやまなしのワークショップでは、きれいな環境を未来へ引き継いでいくために、家庭で出る廃油を使っての石鹸づくりを次世代に伝えていく、地域の行事に積極的に参加することでネットワークを作り、実践活動に繋げていくなど、様々な分野において取り組みや意見が発表され、活発に意見交換が行われました。

なお、今年度からワークショップの進行を、全体の中で意見交換する方式から、数名のグループに分けて意見交換を行い、代表者が意見をとりまとめて発表するといった方式に改めました。参加者からは、「今までよりも意見が言いやすくなった」、「多くの意見が出てくるようになった」と好評でした。

ネットワークフォーラムの最後は、2つのワークショップの結果が発表され、公益財団法人やまなし環境財団の副理事長であり環境パートナーシップやまなしの企画委員である飯窪さかえ氏から講評をいただき、閉会となりました。

ネットワークフォーラムに参加していただいた方にアンケートを実施した結果、95%の方から役に立ったとの回答をいただきました。

3月30日はやまなしクリーンキャンペーンの一斉活動日です



やまなしクリーンキャンペーンポスター原画
平成24年度ごみの散乱防止と3Rを進めるためのポスター・標語コンテスト
ポスター部門 小学校高学年の部 優秀賞
甲府市立羽黒小学校 川口翠さんの作品

やまなしクリーンキャンペーンは、環境パートナーシップやまなし・山梨県・市町村が、県民参加による環境美化のための一斉活動日を提唱し、全県一斉クリーンキャンペーンを展開するもので、平成24年度は年間で371団体、延べ583,932人が活動を実施しました。

奇数月の30日を一斉活動日と定めており、3月30日は、今年度最後の一斉活動日です。

会員の皆様におかれましては、会報、社報等団体独自の広報手段により、構成団体内（傘下団体を含む）への一斉活動日の周知と、活動の呼びかけをお願いします。

また、それぞれの実績に応じた実施形態で活動を実施してください。

なお、収集したごみは指定されたごみ集積場所へ持ち込んでください。

活動後、活動状況報告書を県森林環境総務課へ送付すると、活動状況がホームページで紹介されますので、ぜひ一度送付をお願いします。活動状況報告書は森林環境総務課のホームページでダウンロードできます。

ホームページ [やまなしクリーンキャンペーン](#)

NPO法人みどりの学校の活動紹介

～市民立共同発電所はおかげさまで10周年～

NPO法人みどりの学校 理事長 芦澤公子

NPO法人みどりの学校は、「次世代にツケを残したくない。次世代が安心して暮らせる社会を作りたい。」という思いから、「自立した地域の人々の共同の力で自然エネルギーの利用を広げ、地球温暖化防止と持続可能な社会づくりに寄与する」ことを目的に掲げて2002年8月に6名で任意団体として設立し、2003年6月に山梨県からNPO法人として認定されました。おかげさまで現在会員は約50名に広がっています。

まず、エネルギーも大量生産、大量消費、大量廃棄から脱却して地域で市民の力で生み出し、地産地消の社会を作りたいと考え、市民立共同発電所設置の活動を始めました。

その結果山梨県内200を超える個人・団体のご参加をいただき、2003年12月8日に山梨県で第1号の市民立共同発電所「国母おひさま発電所」を稼働させることができ、今年1月18日にはおかげさまで10周年の記念イベントも行うことができました。また、市民立共同発電所はこのノウハウを活かして県内各地9ヶ所に広がりました。

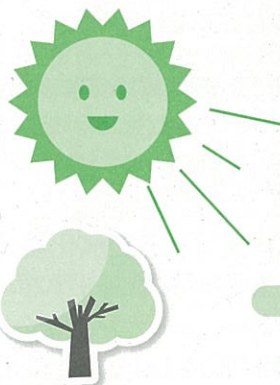
学校や地域に出向いての環境教育、ワークショップ等も行っています。甲府市と協働の市内小学校での太陽エネルギー教室は毎年継続して行い、今年度は11校に出向いて、地球温暖化防止についてのレクチャーや、太陽光・太陽熱エネルギー体験教室などを行いました。

今後の活動としては、家庭に設置された太陽光発電のメンテナンスを進めるための相談・調査事業を行う予定です。

また、県の政策、CO₂ゼロやまなし、地産地消電気エネルギー100%実現に協力していきます。電気を熱に使わないことで大きな省エネにつながりますので、家庭での給湯や暖房などの「熱」の使い方についても太陽熱や木質バイオマス、地中熱などの再生可能エネルギーを利用する啓発をしていきたいと考えています。一緒に活動するメンバー大募集中です！



山梨県で2番目の発電所「山城ひまわり第1発電所」設置工事の様子



甲府市内小学校での太陽光発電体験



甲府市内小学校での太陽熱利用・ソーラークッカー体験

ホームページ

みどりの学校

検索

お知らせ

「きれいな甲斐」は、送付方法を①郵送、②メール配信、③県ホームページからダウンロードの3種類から選択できます。現在の送付方法から変更を希望される方は、事務局までご連絡ください。

環境パートナーシップやまなし事務局（県森林環境総務課内）

TEL:055-223-1657/FAX:055-223-1636 E-mail:sinkan-som@pref.yamanashi.lg.jp

●投稿募集中

【会員紹介コーナー】

①A5判程度で、原稿と写真等を入れて構成してください。②団体等の名称、所在地（事務局または事務所）、連絡先を必ずお書きください。③内容は、活動紹介やPRなど自由です。④締め切りは特にありません。

【行事予定】

○主催団体名、日時、場所、内容、申込み方法、連絡先等をお教えてください。

やまなしエコライフ県民運動

～はじめようエコライフ！CO₂ゼロやまなしをめざして～



やまなしエコライフ県民運動は、みなさんが身近でできる7つのエコ活動を実践することにより、環境にやさしい社会「CO₂ゼロやまなし」を実現していく運動で、環境パートナーシップやまなしが主唱団体の一つとなっています。

「未来の世代に、よりよい環境を残すための架け橋」となるよう、7つの運動を「レインボーアクション」と名づけています。

みなさんも、できることからレインボーアクションをはじめてみましょう。

1 マイバッグ運動

- レジ袋など使い捨ての買い物袋を削減するため、お買い物にはマイバッグやマイバスケットを持って行きましょう。
- 不要なレジ袋は断りましょう。

2 マイはし運動

- 割りばしなどの使い捨て用品を削減するため、外食時やお弁当を食べる際には、マイはしを利用しましょう。
- リユースはし(繰り返し使えるはし)を使用する飲食店を積極的に利用しましょう。

3 マイボトル運動

- ペットボトルや紙コップなどの飲料容器を削減するため、外出時にはマイボトル(水筒や飲料ボトル等)を携帯しましょう。
- マイボトルに飲み物を販売する飲食店を積極的に利用しましょう。

4 リユースびん運動

- 環境負荷の少ないリユースびんの利用を推進するため、一升びんやビールびんなどの繰り返し使えるリユースびん入りの商品を購入しましょう。
- リユースびんの空きびんは販売店などに返却しましょう。

5 エコドライブ運動

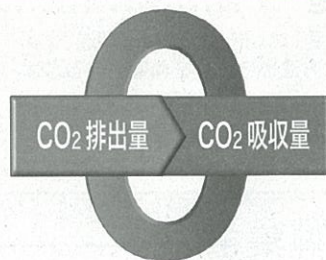
- 自動車から排出される二酸化炭素を削減するため、「ふんわりアクセル」、「加速・減速の少ない運転」、「アイドリングストップ」など環境にやさしいエコドライブを実践しましょう。

6 緑のカーテン運動

- 夏場の冷房時等に排出される二酸化炭素を削減するため、あさがおやゴーヤなどのつる性植物で緑のカーテンをつくり、エアコンの使用を控えましょう。

7 環境家計簿運動

- 家庭で消費されるエネルギーの記録をとり、排出される二酸化炭素の量を計算して、その削減に努めましょう。



CO₂ゼロやまなし

ホームページ

やまなしエコライフ県民運動 検索